

# Die Eiche

ディ アイヘ  
<http://www.jdg-chiba.com>



Japanisch-Deutsche  
Gesellschaft der Präfektur  
Chiba

〒270-2214松戸市松飛台556-12  
Tel./Fax: 047-385-1456

Mail: info@jdg-chiba.com



協会Home Page

## 2024年度年次総会

専務理事兼事務局長 植松 健

2024年度千葉県日独協会年次総会が、5月18日(土) 15時半より船橋西部公民館第一集会室にて、昨年に引き続き対面式にて開催されました。冒頭、3月3日に永眠された平尾浩三名誉会長を偲び出席者全員で黙とう、その後金谷会長の挨拶に続き、議長に志賀常任理事が選出され、前段階として書面表決方式にて開催された理事会の審議・承認を経た事案について厳正に審議され、第28回年次総会議案は規約第十条第3項の規定に基づき、多数決にて原案通りすべて承認されました(会員数112名の内有効議決者数は、議長を除く当日出席者44名、会長への委任状41通計85名)。



総会会場の様子

### 千葉県日独協会総会議案書 (承認済み)

#### ■ 2023年度(令和5年度)事業

##### 主な会議

運営委員会(すべてオンラインにて)、理事会(書面表決方式)、年次総会(23/5/18、船橋西部公民館)

##### 主要行事

###### ● 定例行事

総会記念講演会、オクトーバーフェスト、ドイツ軍人慰霊祭、新春講演会

###### ● 文化教養行事

ボトルシップ研究会、ドイツ語講習会、ドイツ語入門研究、オーストリアからマルツァイト開催協力

###### ● 青壮年部会主催行事

オンライン講演会(ドイツ歴史研究会)、オンライン日本語シタムティッシュ(日本語/日本文化研究会)、ドイツ語教育に関する情報提供(ドイツ語/ドイツ文学研究会)、ドイツの街紹介(ドイツ地誌研究会)

###### ● 菩提樹委員会

###### ● 習志野第九演奏会後援

###### ● 特別行事

市川ドイツデー参加、習志野ドイツフェア&グルメフェスタ参加、船橋市民活動FACE5階に協会活動写真の展示、ドイツ語圏研修旅行準備、創立30周年(2026年)に向けての準備

###### ● その他特別行事

カルステン・キーゼヴェッター大佐(当協会顧問)送別会、(公財)日独協会懇談会サロン登壇、デュッセルドルフ奨学生歓迎会(10月12日)

###### ● 協会通信“Die Eiche”

編集委員会を開催し、偶数月年6回(No142~147)発行

###### ● 協会ホームページ運営、管理：ITの積極活用継続確認

###### ● 独日協会アム・ニーダーラインとの交流

#### ■ 2023年度(令和5年度)決算及び監査報告

一般会計実績：収入の部合計1,887,677円、支出の部合計674,850円、次期繰越金1,212,827円、特別会計実績(日独友好交流基金)：収入の部合計928,918円、支出の部合計

205,632円、次期繰越金 723,286円の決算となり、監事の適正を認める監査報告書も添付され承認されました。

#### ■ 2024年度(令和6年度)事業計画

##### 主な会議

運営委員会(毎月)、理事会(書面)、年次総会(対面式)、記念講演会・懇親会(5/18実施)

##### 主要行事

● 定例、文化教養、特別(各行事とも従来実施してきた行事及新企画を計画)

● 協会通信“Die Eiche”は編集委員会を開催し原則偶数月年6回発行予定。

● 全国日独協会連合会総会(4月19~21日実施)

● 独日協会アム・ニーダーラインとの交流、千葉県国際課との連携強化

● 創立30周年(2026年)に向けての準備

● 青壮年部、運営委員会と連携して、会員の入会促進活動強化

#### ■ 2024年度(令和6年度)収支予算

一般会計予算：収入の部合計1,682,830円、支出の部合計733,000円、次期繰越金合計949,830円・

特別会計予算：収入の部合計900,291円、支出の部合計217,000円、次期繰越金683,291円合計にて予算が承認されました。

#### 役員 (任期 24/4-26/3、青字は、運営委員)

名誉会長	宗宮 好和	金谷 誠一郎
会長	木戸 裕	
専務理事兼事務局長	植松 健	
常任理事兼会計担当	本橋 緑	
常任理事	勝見 浩明	坂田 博 竹内 優
	土屋 有里	本間 美里
理事	秋草 史幸	安藤 永一 石元 成子
	大野 亘児	岡村 三郎 小原 陽子
	神田 基成	木戸 芳子 木戸秋 圭一
	草本 晶	桑原 純子 笹生 健司
	佐藤 守彦	田草川 敏朗
	内藤 敏子	中村 孝子 成田 久江
	藤川 義弘	保坂 有里奈
	堀江 弘隆	松浦 一 松江 美代子
	宮藤 宏	三輪 瑛 室田 真由見
	山田 浩輝	山本 久瑠実
監事	中野 泰行	湯浅 正人
顧問	ラルフ・ベルズィック武官(ドイツ連邦共和国大館ドイツ空軍大佐)	
	若松 純也(陸上自衛隊第一空挺団長兼習志野駐屯地司令陸将補)	
	林 節子(清和会理事長)	
	志賀 久徳(千葉県日独協会)	
	吉川 三朗(千葉県日独協会)	
名誉会員	伊藤 光昌	須古 正恒 杉田 房之

## 会長就任のご挨拶

### 会長 木戸 裕

さる5月18日の総会におきまして、ご指名をいただき、はからずも会長の重職を拝命することになりました。平尾名誉会長、宗宮名誉会長、金谷会長と錚々たる実績と実力をもった、対外的にも存在感のある歴代会長のあとを受け、未熟な私に会長という重責を果たすことができるか、たいへん不安に思っております。

金谷前会長は、当協会の創設期から協会とともに歩んでこられた方ですので、今後も引き続き、名誉会長として至らぬ新会長を温かく見守ってくださいますようお願い申し上げます。

また長年にわたり副会長として協会の実務の中心を担ってこられた須古様、杉田様におかれましては、新たに名誉会員として、当協会の発展のために引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りたく存じます。

もとより不慣れな新会長ではありますが、幸いに相談役として、志賀様、吉川様には、大所高所から会の運営を見守ってくださる顧問にご就任をいただけることになりました。お二方には運営委員会にもご出席をいただき、私の至らぬ点をご指導いただけますことをたいへん心強く思っております。

さらに植松・新専務理事兼事務局長をはじめとする有能で、高い見識と知見をもった常任理事、理事、監事の皆様に支えていただけることになりましたので、及ばずながら会長の職を何とか全うできるよう努めて参る所存です。

個人的には、この3月に亡くなられた平尾名誉会長のおすめをいただき当協会の会員となりました。先生が亡くなられたのと相前後して会長に就任することになり感慨深く思っております。平尾名誉会長のご遺志に少しでも報いることが出来ればと願っております。

皆様方ご承知のように、千葉県日独協会はその創設にあたって、ドイツ人俘虜収容所の歴史と大きくかかわっています。俘虜収容所と申しますと鳴門にあった板東俘虜収容所が有名ですが、千葉県習志野市にも、第一世界大戦中、中国で捕虜となったドイツ人兵士を収容した俘虜収容所がありました。当時蔓延したスペイン風邪がもとで収容中に命を失ったドイツ人兵士を弔う慰霊碑が習志野霊園にあります。

千葉県日独協会は、毎年11月のドイツ「国民哀悼の日」に、ドイツ人兵士の慰霊祭開催を目的の一つとして1996年に設立されたという経緯をもっています。慰霊祭も今年で30回目を迎えます。会員だけでなく、大使、大使館付武官をはじめ、県、市、陸上自衛隊習志野駐屯地の代表、地元自治会など各方面から多くの方々をご参列くださっています。

第一次世界大戦の勃発とともに、それまで平穏に過ごしてきた一市民が、徴兵され、日本軍の捕虜となり、日本各地の俘虜収容所に収容されました。はるか故国に思いを馳せながら、遠い異国の地で無念の最後を遂げた兵士たちを弔う慰霊碑の管理が、地元住民の無償のボランティアにより維持され、毎年ドイツ「国民哀悼の日」にあわせて慰霊祭が実施されてきました。ドイツから来られたドイツ軍幹部の一人は、この事実を知って大きな感銘を受けたとおっしゃっていました。

われわれの活動は、高校の教科書のなかにも取り上げられております。清水書院から刊行されている高校の歴史の教科書に、慰霊祭の写真とともに、慰霊祭の話が掲載されています。なお、先日の総会でご講演くださった鎌倉学園中学校・高等学校教諭の神田基成会員は、この教科書の著作者の一人で、最初は非会員として慰霊祭に参加され、引き続き正会員になってくださいました。

また昨年は、東京の高等学校の先生が、生徒さんを引率されて、慰霊祭にご参加くださいました。われわれの活動に教育的意義も認めてくださりたいへんうれしく思っております。



俘虜となったドイツ兵の残した日記や当時の記録などを読みますと、捕虜に対しても給与が支払われており、収容所内でビールも購入できたそうです。また市民との交流もあり、その道のマイスターである俘虜から製法の伝授を受け、日本のソーセージ作りの草分けになった人もいます。そうした昔の資料の発掘、紹介なども、宗宮名誉会長を中心に会員有志の研究会で行ってまいりました。その成果は当協会のホームページに掲載され、関係者から高い評価を得ています。今後も、こうした活動に引き続き取り組んで参りたいと存じます。

また、当協会の特色として、金谷前会長がご在任中、とくに力を注いでこられた青壮年部の活動があります。青壮年部では、活力をもった前途洋々たる若手が、人生経験豊富で、多彩な知見をもっておられる年長の会員のアドバイスをいただきながら、勝見部長を中心に、将来を見据えたさまざまな興味深い企画とその実施に意欲的に取り組んでおります。皆様、この青壮年部の活動にもご参加くださいますようお願いいたします。

私のモットーとして、すべての会員の皆様が、千葉県日独協会の会員になってよかったと思っていだける会にしたい。当協会設立の理念に共鳴する会員が全員、年齢、職歴、その他、バックグラウンドを問わず、誰もが光輝くような、千葉県日独協会を目指していきたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、今後とも何卒よろしく、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。会長就任のご挨拶とさせていただきます。

## 総会記念講演会を聴講して

### ドイツ帝国主義と学術研究

講師： 理事 神田 基成

今年度の総会記念講演会にご登壇いただいたのは、当協会理事で鎌倉学園中学校・高等学校の社会科教諭をされている神田基成会員です。神田氏は、2022年度学習指導要領から新たに高等学校で設置された科目「歴史総合」の教科書制作にも関わられており、清水書院出版「歴史総合」の教科書には、氏による習志野俘虜収容所についてのコラムと2019年に当協会で行われたドイツ軍人慰霊祭の写真が掲載されています。



この「歴史総合」とは、「世界史」「日本史」を選択する前の必修科目で、日本と世界の事象を融合して理解を深め、日本と世界を行き来する思考が求められる科目とのこと。そのような新しい科目の教科書に、当協会の原点ともいえる慰霊祭や習志野俘虜収容所を取り上げていただいたことに感銘を受けました。また勤務校においては、夏休みに生徒たちをヨーロッパに引率して「ヨーロッパ探求コース」を継続しておられ、今回、貴重な最近の情報も映像と共に提示していただきました。

講演は前半に高等学校歴史教育におけるドイツの学習事例として近代の「帝国主義と世界分割」のお話、後半に昨年引率された「ヨーロッパ探求コース」からベルリンの2つの博物館を帝国主義時代から現代を考える場としてご紹介いただきました。

前半は、ドイツがいかにして帝国主義を進め海外領土を広げていったかから始まり、それと並行して高まった知的関心からオリエントの研究、エジプト学、アッシリア学などの体系の成立、現地で活動していく中から文化人類学や熱帯医学の発展などが大変分かりやすく説明されました。

後半は、こうした植民地に関する学術研究の「成果」が、現在ドイツでどのような形で見られるのか紹介されました。ベルガモン博物館では中東方面の展示が、フンボルト・フォーラムではフロアごとに異なる展示がされているそうです。興味深かったのは、フンボルト・フォーラムでは、市民に歴史を私事として考えさせる仕組みを持つ体験型の展示スペースがあることです。

今回の講演は、専門家による詳細な説明で近代ドイツの歴史を追うことができました。また、負の面を含めて歴史を過去のものとしてせず現在の問題として扱おうというドイツ人の意識に改めて気づかされました。機会があれば、大ドイツ時代のドイツに思いを馳せながら2つの博物館をゆっくり見学してみたいと思いを抱かせられた充実の講演会でした。（常任理事：土屋 有里）





示唆に富む記念講演会終了後の集合写真

## 懇親会

記念総会后、会場を「居酒屋ちよいちよい下総中山店」にて懇親会が開催されました。志賀顧問の開会の挨拶、39名の会員が参加、県外から参加された会員、新しく入会された会員も多く参加されました。伊藤名誉会員による閉会の挨拶を頂きました。会員相互に親交を深める気運で大盛況となりました（常任理事・勝見）。



## ドイツ語の響きに魅せられて



ドイツと私 -土屋 実穂-

私が初めてドイツに触れたのは、小学校5年生の時でした。

ラジオのクラシック音楽番組から流れてきたフィッシャー＝ディースカウの歌う「菩提樹」。そのドイツ語の美しさに耳はクギ付け！！こんなに美しい言葉がこの世にあるのかと驚き、父にお願いしてテキストを買ってもらい、NHKのドイツ語ラジオ講座を聞き始めました。変わった子どもです（笑）

あの出会いがなければ、歌の道に進むこともドイツに留学することもなかったかもしれません。

念願かなってドイツに渡ったのは2006年のことでした。ゲーテ・インスティテュートにあんなに通って勉強していたはずなのに、空港に降り立った瞬間から聞くのもしゃべるのも全くダメで打ちのめされたのをよく覚えています。



音大の食堂にて

それでも親切で仲良くしてくれたホストファミリー、毎日通う語学学校、ドイツ語のみの日常生活でどんどん鍛えられていきました。

歌で留学するならイタリアへ。と思われがちです。確かにイタリアオペラは素晴らしい私大好きですが、教会に響くドイツ語の美しさとバッハの音楽の荘厳さ、ゲーテの詩の歌いやすさなど、ドイツ語を勉強しドイツで生活したからこそ経験できた音楽の素晴らしさがたくさんあります。



終了試験後、恩師と

だって、ほら、音楽の3大Bは、バッハ（Bach）ベートーヴェン（Beethoven）ブラームス（Brahms）。全員ドイツ人ですもの。

ドイツでは小さな街でもオペラ劇場があり、文化としてクラシック音楽が小さな子供にも根付いています。教会でのコンサートの機会も多く、最初のうちは語学学校と歌のレッスンでいっぱい生活も、しだいに演奏会への出演、劇場のオーディション、アルバイト…とやるが増えていき、忙しいながらも楽しく充実した日々を送ることができました。

ドイツでの生活は刺激に満ちて素晴らしいものでしたが、最終的に「冬が寒すぎる！！」というシンプルな理由で帰国を決めました。



氷点下になった日

帰国後は声楽の仕事の傍ら、留学希望者向けにドイツ語のレッスンも行っています。Zertifikat-Deutsch A1からテキストを再び読んでみると、再度ドイツ語に魅了されます。一番美しいと思うのはやはり発音ですが、文法構造の美しさと考え抜かれた仕組みにも毎回感心します。

時代は進化し、スマートフォンがあれば通訳も翻訳もしてくれるようになりました。けれど、言葉の素晴らしさというのは学んで経験することでしか手に入れられないと思います。みなさん、ぜひぜひドイツ語を勉強しましょう！



# ドイツの街紹介

## 双子の街Görlitz-Zgorzelec

会員 南木 雅弘

Görlitz (ゲルリッツ) というLand Sachsen (ザクセン州) の南東の街の駅に初めて降り立ったのは2018年7月のことでした。Dresden (ドレスデン) からSchlesien (シュレジエン、ポーランド語名シロンスク) 地方を通り、Breslau (ブレスラウ/同ヴロツワフ) まで旅行した時でした。生憎、修復工事中で、何回かバスを乗り継ぎ、ゲルリッツ駅で乗り換えるという難行でしたが、お蔭でゲルリッツ駅を身近に感じることができたのが再訪のきっかけとなりました。



ゲルリッツ駅ホーム

よく調べてみると、Görlitzは、重要な交通路に面しているため、12世紀には全国的に重要な交易都市へと発展、旧市街地は、第二次大戦で殆ど被災しなかったため、今日でも後期ゴシック様式、ルネサンス様式、バロック様式の建物を見ることができるとのことでした。この街は、中世の終わりの数十年間が最初の最盛期で、その後、国内の鉄道の実現により、19世紀半ばに工業化が始まったそうです。かの有名な当時の超特急Fliegender Hamburger (フリーゲルダー・ハンブルガー) がここで生産されたのも頷けます。そして、第二次大戦までは一つの街であったのが、戦後、川を隔てて2つの国に分断されてしまったという歴史的事実を知り、2023年10月に出掛けてみました。



ゲルリッツ駅構内



ニコライ塔からの眺め

駅のホームに降り立つと、そこはホーム全体をドーム状の屋根が覆うという、ドイツの一般的な中央駅と同じ構造でした。更に階段を降り歩いて行くと、Der Hauptsaal (中央ホール) に出ます。ここは豪華で、この街の栄華を感じさせます。更に外に出ると、Die Straßenbahn (路面電車) の停留所があり、ここから街のDie Altstadt (旧市街) に行けるようになっていました。地球の歩き方に地図はなく、Google Mapを頼りに路面電車から降りてみると大きなNikolaiturm (ニコライ塔) があり、そこから旧市街のObermarkt方面に伸びる道を進むと、第二次大戦で破壊を免れた街だけあって、佇まいはまさに中世でした。胸をワクワクさせてObermarktに行くとか何やら人だかりができています。市内ツアーに参加しようと思っている人々でした。私はドイツ語の勉強も兼ねてツアー券を買って参加したのですが、大正解でした。



市場の風景

まずは、ナポレオンが市民の前で演説したという建物の見学から始まり、Görlitzの歴史を踏まえながら名所を解説してくれました。最後は、1423年に建築開始、1457年に献堂された由緒あるDie Pfarrkirche St. Peter und Paul (聖ペトロ・パウロ教会) で終了したのですが、市の歴史や街の成り立ちがよく分かりました。このようなツアーは、ドイツ各地の街で開催されているので参加することをお勧めします。



聖ペトロ・パウロ教会

教会の見学を終え坂道を下ると、そこは独波国境の橋 Altstadtbrücke (旧市街橋) でした。ドイツ側から見たポーランドかつては国境検問所があった橋も今や無人の橋で、簡単に渡ることができます。しかし、双子の街の片方であるZgorzelec (ズゴジレツ) はひっそりと寂しく、街の中心部は、この橋からはかなり離れていました。12月に再訪した際、ポーランド人のタクシーの運転士から聞いた話では、Zgorzelecの人も街の中心は、Görlitzであると思っているとのことでした。やはり、双子の街の心は一つなのかもしれないと思いながら歴史ある街を後にしました。



ドイツ側から見たポーランド



ポーランド側の街並

# 新入会員紹介 (武井 曜子)

今年2月に植松さんのご紹介で入会させて頂いた武井曜子です。



中学生の頃文学好きになり、当時ブームだったリルケに夢中になって、リルケの詩を和訳でなくドイツ語で読みたいという一念で、大学は独文科を選びました。でも私の時代は今と違って、語学は「読み書きと文法」が第一で会話や日常語はほとんど教えてもらえませんでした。留学もしなかったし、結婚相手は海外転勤無しでしたし、ドイツで生活したことはありません。植松夫人 (アネットさん) のドイツ語グループで指導して頂いてもう長くなりますが、会話はあまり上手になっていません。

千葉県に日独協会があって、しかも植松さんが役員をしていらっしゃるのを初めて知り、もっと早く知りたかったな、と思います。人生のゴール間近の高齢者ですが、皆様のお仲間に入れて頂いて、好きなドイツ語は最後まで楽しく勉強したいと思っています。よろしく願いいたします。

# 法人会員紹介

皆様初めまして。  
先日入会させて頂きました、  
船橋駅から徒歩3分もかからない場所に



あるドイツ居酒屋「バイエルンストゥーベ by ダンク」で店長を任せております、祖父江和彦 (ソブエカズヒコ) と申します。

今はドイツに一時帰国しておりますが 18年来の友人である、ストラウス ベルンド (Strauss Bernd) と2015年に店を立ち上げ、はや9年目となりました。その間コロナにも見まわりましたがお客様にも恵まれ、船橋唯一のドイツビール専門店という事で沢山の方にご来店頂いております。

常時10種類以上ご用意しているドイツビールの中でも、関東で唯一生ビールとしてご提供させて頂いている「ケーニヒルートヴィッヒ ヴァイスビア」は格別です！ドイツ郊外の居酒屋をイメージした店内で飲むヴァイスビアと白ソーセージ。円安や世界的な物価高もあり気軽にドイツに行けない今、船橋でつかの間のドイツ気分を味わっていただければ幸いです。Prosit miteinander.

# 今後の予定

## ■ 平尾浩三先生を偲ぶ会

日時 2024年7月27日 12:00-14:00  
場所 今日和 会費 3,000円

お問い合わせ、お申し込み先：須古正恒様  
E-mail: suko15921@jcom.zaq.ne.jp

## ■ 青壮年部ドイツ歴史研究会オンライン講演

日時 2024年7月28日 18:00-予定オンライン講演  
内容 「オーストリアの民族意識 (仮称)」  
●詳細は、別途、ご案内致します。

# 会員情報

法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人清和会、(株) 京葉ビル管理、(株) 和幸電気工事、  
バイエルンストゥーベ by ダンク

# 編集後記

新年度が新体制でスタートしました。新体制の任期は、2026年までの2年間。運営委員の一人として当協会の活動地盤を構築することに少しでも貢献できればと思っています。協会の活動の骨子は、これまでの先輩方が示された「千葉県日独協会の国際交流活動」の図にわかりやすく提示されています。そのコンセプトに基づき、対外活動とともに対外活動を推進できる原点となる、組織内における内部活動の活性化を青壮年部の各種活動を通じて推進したいと思っています。懇親会において多くの新たな会員の方との懇談を通じ、内部活動の活性化の可能性を強く感じました。勝負